Ryukoku University Center of Educational Development

大学教育開発センター通信

2010年度
第3号
通巻第23号

CONTENTS

【特集1】
2009年度FD報告会開催報告

2009年度FD報告会開催一覧 …… 2

「龍谷大学のFD新舞台 ── FD報告会 ──」
松本　和一郎（大学教育開発センター長）

「論点としての初年次教育、可能性としての共働」
安藤　徹（文学部FD活動推進委員会委員長）

「第一回理工学部・理工学部研究科　FD報告会を開催して」
藤原　学（理工学部FD委員会委員長）

【特集2】
2009年度 龍谷大学FDフォーラム開催報告

プログラム …… 6

参加者の声
「第5回龍谷大学FDフォーラムに参加して」
河合美香（法学部准教授）

「教育の難しさを再発見」　築地達郎（社会学部准教授）

FD活動紹介 …… 8

「一歩踏み出すためのFD活動推進委員会へ」
安藤　徹（文学部FD活動推進委員会委員長）

「理工学部学科FD委員会の設置と活動」
藤原　学（理工学部FD委員会委員長）

2009年度公開授業開催報告 …… 10

「国際文化学部における公開授業の取り組み」

2009年度 大学教育開発センター活動報告 …… 11

IMFORMATION …… 12

新着図書紹介

大学院FDについて

大学教育開発センター通信
2010年度 第3号（通巻第23号）

発行日:2010年3月12日
編集・発行:龍谷大学　大学教育開発センター
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67　TEL(075)645-2163　FAX(075)645-2100　http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html
発行責任者　松本和一郎

特集 1

2009 年度 FD報告会開催報告

大学教育開発センターでは、各学部 FD 委員会等と共催し、各学部・各研究科等が主体的に取り組んでいる教育活動や FD 活動について、定期的にその組織状況や成果などを当該学部・研究科等及び学内に紹介し、FD 活動の活性化及び交流を図るとともに、全学的かつ組織的な FD 活動の一環として、本学の教育改善・教学創造に資する情報交換・情報共有の場とすることを目的とする「FD 報告会」を開催しています。今回は 2009 年度に開催した FD 報告会の内容をご紹介します。

2009年度 FD報告会開催一覧

文学部	①「2009 年度第 1 回文学部 FD 研究会」 **テーマ：文学部における初年次教育の現状と課題－学生の主体的な学びを支援する体制構築に向けて－** 日時：6月 24 日（水）15:30 ～ 17:30 場所：大宮学舎　西黌２階大会議室 内容：文学部（教育［教養教育／専攻］／事務）における「初年次教育」の現状（取り組み事例）について報告するとともに、今後の課題を提起する。 ②「2009 年度第 2 回文学部 FD 研究会」 **テーマ：基礎演習における TA（ティーチング・アシスタント）導入の教育的効果とその課題－学生の主体的な学びを支援する体制構築に向けて（2）－** 日時：11 月 25 日（水）15:30 ～ 17:30 場所：大宮学舎　西黌２階大会議室
経営学部	経営学部ＦＤ委員会主催「ＦＤ報告会」 **テーマ：最低到達目標達成のための教育に資する諸教材（私案）の紹介** 日時：6月 24 日（水）15:15 ～ 場所：紫英館６階会議室 ※学部内限定（非公開）
短期大学部	「短期大学部 FD 報告会」 （共催：大学教育開発センター） **テーマ：短期大学部学科改組計画における教養福祉コース（仮称）の構想について** 日時：７月 24 日（金）14:00 ～ 17:00 場　所：紫英館東第２議室

理工学部	①「第１回 理工学部･理工学研究科ＦＤ報告会」 **テーマ：６学科における FD 活動報告（理工学部６学科）３専攻における FD 活動報告（理工学研究科情報・環境・物質）質疑および討論** 日時：７月 22 日（水）15:30 ～ 17:30 場所：瀬田学舎１号館６１９会議室 ②「第２回 理工学部･理工学研究科ＦＤ報告会」 **テーマ：「理工学部教養教育のいま」報告・総合討論・まとめ・講評** 日時：２月 24 日（水）教授会終了後 16:00 ～ 場所：瀬田学舎１号館６１９室
社会学部	「社会学部 FD 報告会」 **テーマ：「新入生向け入門ガイドの作成」** 日時：12 月2日（水）15:10 ～ 16:40 場所：瀬田学舎６号館１階プレゼンテーション室
国際文化学部	「国際文化学部 FD 研究会」 **テーマ：「自己本位」から＜共生＞の芸術へ－夏目漱石の理論的格闘をたどる－** 日時：６月 17 日（水）16:00 ～ 18:00 場所：瀬田学舎３号館３２７会議室 目的：教員交流および本学部の学士教育に何が必要かについて意見交換を行うこと

龍谷大学のＦＤ新舞台
－ ＦＤ報告会 －

大学教育開発センター長　松本 和一郎

教育に関する改善活動をファカルティ・ディヴェロップメント（以下、「FD」と略します：正確な龍谷大学としての FD の定義は WEB の「龍谷大学 大学教育開発センター」を見てください）と呼んでいて、大学設置基準で大学に義務づけられたこともあって、この数年（早くから取り組んでいるところでは 20 数年）全国の大学で大いに盛んです。龍谷大学でも 2001 年 4 月に大学教育開発センター（以下、「センター」と略します）を立ち上げ、本格的に FD に取り組んできています。しかしながら、法で義務付けられたこともあって、実践が報告書に書けて証拠が残ることに傾き、本当に教育の現場が良くなってきているのか疑問符も付く状況です。

そういう状況下で、龍谷大学における FD もその方向性は堅持しつつも、やり方は見直していかなければなりません。では、どういう点を見直していくべきなのでしょうか？龍谷大学においては、次の 3 つの点が鍵になると見ています。

その１．自ら担う全員参加のＦＤ

従来の龍谷大学の FD は、「良い取り組みを伸ばして全学に公開し、全体の範とする」という方針でした。そして、大いに成果を挙げ、公開授業・FD フォーラム・FD サロン・自己応募研究プロジェクト・指定研究プロジェクトなどに結実しています。その成果を踏まえて、次に求められることは「全員参加で全体のレベルアップを図る」ことにあります。情報学でいうボトルネック理論と同様に、教育現場においても構成要素の最低レベルが大きく全体の質を規定してしまいます。従来の大学では、個々の授業はその担当者に全権が委ねられていると解釈されていたと思います。実際、学生の思考の柔軟性のおかげで、過去の大学の教育は、結果オーライ的にそれなりに機能していたと思います。しかしながら、大学教育がユニバーサル化の時代を迎えて、学生に学習への目的意識・意欲が不確かで学習習慣も身に付いていない現代においては、各教員が各教員の考えで個別に努力することでは教育の質を支えられなくなっています。いまこそ、**「ファカルティ」**・ディヴェロップメントが必要とされています。組織による取り組みに先験的抵抗感を示される方もいますが、カリキュラム自体、学部・学科（あるいは研究科・専攻）で組織として定めるものであり、教員には組織としてのカリキュラムの遂行と教育成果の保証が求められます。その成果が不十分であるならば、先験的に触れない領域を設けずに、教育のやり方を見直さなければなりません。「1 単位 45 時間の学習の実践」なども組織として取り組まなければ大きい効果は望めません。

学部を超えて多くの先生方と話をすると、「最近の学生の学力は・・・」とか「何をするつもりで大学に来ているのか・・・」などの言葉にしょっちゅう出会います。これはまさに教育現場が理想的成果は挙げていない証拠だと思います。また、企業を回る機会に現場の方々と話をすると、決まって面談の最後の当たりで重い口を開いて「とにかく最近の新採用は常識と工夫に欠ける」という言葉が出てきます。現代の大学では、かっての教育上の経験と常識はそのままでは通用しなくなっています。必ずしも専門教育の未消化だけではありません。むしろ、人間養成の全体に問題が生じていると見えます。もちろん大学だけの責任ではありませんが、教育機関と社会の接点にある大学にはそれなりの責任があります。

その２．　学部・学科の壁を越える

従来、龍谷大学では学部自治が広く解釈され、全ては学部が決めて学部が責任を負う、という意志決定と責任の取り方がなされてきました。前から感じていましたが、センター長になって一層痛感したことは、各学部が良いものを持っているのに「自分たちがやっていることは他所でもやっている」という思いこみと、他学部に良い取り組みがあるにもかかわらず自分の学部ではその必要性の認識すらないことが多くみられることです。他学部のことをほとんど知らない・知らせないのが現状です。これは、まったくもってもったいない。学内の優れた取り組みを全学に公開し普及を図る・自分の学部に欠けているものを認識し取り入れる、そういう活動が龍谷大学には必要です。

その３．　提案は自らまとめる

センター長になって初めてのセンター会議である提案をしたときのことです。各学部の教務主任から、まず「トップダウンか」と責められ、続いて提案の不備な点を多々指摘され、提案を認めることはできない、と言われました。それでは提案の主旨が悪いのか、と問うと、主旨には賛同するが、施策が悪いとのこと。それではどういう施策にすれば良くなるかと問うと、「それは提案者が考えることである」との答え。がっかりしました。センター長と少ない事務スタッフで非の打ち所の無い提案ができるわけがありません。センターは次なる課題を提起し、最終的実行案は経験に富み学部の教育に責任を負う教務主任の方々に知恵を出して頂くのが一番良いに決まっています。折しも近隣の有名私大の意志決定のあり方が明確に打ち出されたときでもあり、本学の意志決定のあり方を根本から考え直さなければならないと考えました。ちなみに近隣の大学のひとつは理事会によるトップダウンを徹底し、他のひとつは教務関係ですと教務会議が提案し審議決定し、それを大学執行部が最大限尊重する、というものです。

本学での意志決定のあり方はどうあるべきでしょうか？ センターに関しては、現在では、後者の改訂版：センター会議の責任を重くしすぎないために提案の口火はセンター側が切るが、その主旨が良ければ、提案をたたき台にして実行内容はセ

ンター会議が主体的に取りまとめる。そのために必要ならプロジェクトチームを組む、という方式を採用して頂いています。もちろん、センター会議のメンバーからの提案も歓迎です。

なお、センター運営委員会においても、作業部会を３つ設けて、この方式を採用しています。

このような意識の下に、審議体を持たない教学企画部の提案作成の知恵袋として立ち上げた教学企画委員会の提言を、センター会議でまとめ上げて頂いた第１号が各学部の「FD 報告会」です。**「提案は自らまとめる」**を実行して頂きました。良い提案に育ったと感心しています。なお、教学企画委員会は提言をするのであって提案するのではありません。教学企画委員会が自由討論で検討を深めて頂いて、それを生かすようにセンターが提案をまとめ、提案にはセンターが責任を持ちます。そして、センター会議で育てていただきます。

この報告会の特徴は、センター会議で決めたにもかかわらず、主催者は各学部の FD 委員会です。そこに、**「自ら担う全員参加の FD」**が表れています。また、報告会は他学部にも公開とし、センター会議とセンター事務部のメンバーから選ばれたアドバイザリーボードを受け入れて頂いています。**「学部・学科の壁を越える」**画期的試みです。

本年度、多くの学部で FD 報告会を開催して頂き（中には２回開催する学部もあります）、私もいくつかアドバイザリーボードとして参加し、大いに刺激を受けました。学部により、取り上げる課題に特徴が見え、課題へのアプローチにも個性が出ていて、「これらの良いとこ取りをすれば龍谷大学はずいぶん良くなる」という自信を持ちました。残念だったことは、アドバイザリーボード以外の、他学部からの参加が少なかったことです。この点は来年度の改善課題です。

論点としての初年次教育、可能性としての共働

文学部 FD 活動推進委員会委員長　安藤　徹

文学部では、2007 年度より年２回「文学部 FD 研究会」を開き、毎回設定したテーマにかんする実践報告や意見交換などを積み重ねています。2009 年度からは、全学的に公開する「FD 報告会」を兼ねる形での開催としました。

今年度は、「学生の主体的な学びを支援する体制構築に向けて」という大きな課題を掲げ、第１回（６月 24 日）では「文学部における初年次教育の現状と課題」を、第２回（11 月 25 日）では「基礎演習における TA（ティーチング・アシスタント）導入の教育的効果とその課題」を取り上げ、学科・専攻での取り組み事例や課題の報告、および質疑応答などを行ないました。教務課課員からの報告も組み込み（第１回）、学生・TA（院生）・教員の三者を対象にしたアンケートを実施し、あるいは院生にも呼びかけて実際に何人かの参加を得る（第２回）などの“広がり”を多少とも実現できたことは、初年次教育という大事な論点の共有化とあわせて、今後の活動にとって貴重な糧になるものと思われます。

2010 年度以降、さらに継続的に学部全体での議論を深化させていくとともに、私たちの取り組みを学部外そして学外にも積極的に発信しながら、いっそうの教育改善をめざしたいと考えています。

第一回理工学部・理工学部研究科 FD 報告会を開催して

理工学部 FD 委員会委員長　藤原　学

７月 22 日（水）に大学教育開発センターおよび理工学部・理工学研究科 FD 委員会が共催した FD 報告会が開催されました。大学教育開発センターからの教職員と多数の理工学部教員・職員が参加されました。ここで、開催を企画した立場から報告を行います。

FD（ファカルティー・ディベロップメント）とは、一般的には「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組みの総称」と定義されています。それぞれの教員による日々の教育改善活動に加え、教員相互の授業参観、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などが行われ、カリキュラムの改訂や編成なども含め、学生の学習意欲の向上と教育の質の向上を図り、教育目標を実現させることに FD の意義があるとされています。最近では日本のほとんどの大学に FD に関する組織が設置され、FD 活動が定着してきています。その中で龍谷大学は他大学に先駆けて FD に関する取組を開始し、既に長い歴史と豊富な実績を有しています。また、理工学部の FD 活動はこれまで比較的活発に行われてきました。しかし誠に残念ながら、それらの活動のほとんどは教員の個人的な取組にとどまっており、学部・学科としての組織的な取組へ広がることは少なかったと思われます。昨年度理工学部に FD 委員会が設置され、さらに今年度には６学科・専攻それぞれに FD 活動を実践する組織がつくられました。そこで、これまでの個々の活動を紹介するとともに、問題点と改善策について理工学部の教員間で議論できる機会を提供するために第一回の理工学部・理工学研究科 FD 報告会の開催が計画さ

れました。

まず、大柳理工学部長・理工学研究科長より挨拶をいただきました。つづいて、6学科·3専攻より、報告が行われました。数理情報学科では、阪井先生より「数理情報学科における数学序論改革」の報告がありました。リメディアル教育の一環として導入された数学序論は年を経て理工学部のそれぞれの学科の実情に合わせて初年次教育として内容が大きく変えられています。数理情報学科では3名の専任教員と5名の大学院生TAによる少人数教育として行われています。それらの実情と教育的効果、問題点などが述べられました。電子情報学科では、木村先生より「電子情報学科の新カリキュラムと状況報告」の報告がありました。2007年度のカリキュラム改革により数学・電気回路分野の基礎講義において週複数回開講科目の設置などの新しい試みがなされています。そこでは、学生の授業への集中、定期試験の成績向上などの教育効果が明らかとなっています。また、現在カリキュラム進行中の3+4年次特別研究（従来4年次1年間で実施している特別研究を選択と必修の2科目2年間実施に編成変え）についても説明されました。機械システム工学科では、岩本先生より「学科運営法の改善とFD活動」の報告がありました。教員間の相互理解促進を目的とした学科懇談会を開催し、時間に追われることなくじっくりと議論できる場として活用されています。そこでは、学生の実態把握、大学院の現状と課題、授業方法などが議題となっています。また、会議中の議事録の作成、基準の文書化、文書のデータベース化にも取り組まれており、結論が明確となり会議が効率的に運営されるなど良い成果を挙げておられることが報告されました。物質化学科では、宮武先生より「物質化学科での教育改善に向けた取り組み」の報告がありました。物質化学科では2003年にJABEE（日本技術者教育認定機構）により教育プログラムが認定されています。その過程で、カリキュラム改革がなされるとともに、組織的なFD活動の充実に努力されています。創成教育科目である「入門セミナー」の紹介や3年後期の「物質化学研究デザイン演習」と4年次の「特別研究」の実施と評価方法について説明されました。情報メディア学科では、片岡先生より「プログラミングが好きになる」の報告がありました。プログラミングの重要性が理解されているにもかかわらず、情報メディア学科の学生のプログラミングに対する意識が低く、学科固有のプログラミング関連科目において対策されています。また、「数学序論」と「微積分・演習」の授業内容を見直されました。さらに、今後は論理的に考える訓練を行う「基礎セミナー」の内容についても学科内で検討されるとのことです。環境ソリューション工学科では、宮浦先生より「当学科の低留年率についてのカリキュラム面からの考察」の報告がありました。理工学部の6学科の中で環境ソリューション工学科は、設置時より留年および退学する学生が非常に少ない傾向にあります。その要因がどこにあるのか自己分析されました。ひとつは低学年次から少人数の実習科目が多く、学生間、学生教員間のコミュニケーションが密であることです。しかしながら、このことが必ずしも教育の質の高さを保証しているわけではないため、FD活動が目指すべき目標を見失わないようにすべきだと説明されました。

学部については全ての学科の取り組みについて報告していただきましたが、時間の制約もあって大学院については2007年度に新たに設置された2専攻（情報メディア学·環境ソリューション工学）と2007年に大学院GPに選ばれた1専攻（物質化学）の3専攻の活動について報告していただきました。物質化学専攻では、宮武先生より「大学院GPでの取り組み～東洋の倫理観に根ざした国際的技術者養成～」の報告がありました。大学院教育の実質化のために2008年度に大学院のカリキュラム改革を実施され、「高度物質化学特論・演習」「高度物質化学実験・演習」「共生学特論」の3つの必修科目を新設されました。また、選択科目として海外での研修を含む「プロジェクト企画特論」「テクニカルライティング」などを設置され、それらの科目内容を説明されました。情報メディア学専攻では、片岡先生より「学内外のプロジェクトを利用した大学院カリキュラムの実践的展開」の報告がありました。まず、一般的な大学院カリキュラムと学内外のプロジェクトのそれぞれの特徴を述べられ、プロジェクトを利用したカリキュラムの実践的展開の例を紹介されました。実践的展開の教育効果としては、大学での学びが社会に役立つということがよくわかり学生のモチベーションが向上することが挙げられました。環境ソリューション工学専攻では、岸本先生より「カリキュラム編成の紹介、特に専門英語教育について」の報告がありました。「環境技術英語特論」のシラバスが紹介され、海外の科学論文の内容を理解し自分の意見をしっかりと伝えることのできる技術英語の習得を科目の目標とされています。講義は基本的にすべて英語で行われていますが、受講生のアンケートからは科目の目的は十分理解されているものの、レベルと分野（専攻の2コースのうち生態学に偏っている）などの問題点が指摘されています。

学部および大学院の報告の後、それぞれに質疑と討論の時間を設けました。多数の質問が出されたが、それも時間の都合で仕方なく制限させていただきました。報告会の最後に大学教育開発センターのアドバイザリーボードとしてご参加いただいた野間先生より講評をいただきました。ご提出いただいたコメントについては、資料として付けさせていただきました。このような報告会を重ねていくことは非常に意義深いことであり、今後も継続して開催（次回は2月末に予定）されることになっています。

特集２

2009年度龍谷大学 FDフォーラム開催報告

龍谷大学大学教育開発センター（協賛：関西地区 FD 連絡協議会）
第５回龍谷大学 FD フォーラム
「学士課程の体系化と教育の質保証」

■ 日時：2009 年 12 月 12 日（土）13:00 ～ 16:00
■ 場所：龍谷大学　深草学舎　３号館　101 教室

プログラム

12:30 ～ 13:00　受付開始
13:00 ～ 13:05　開会挨拶
13:05 ～ 13:10　学長挨拶

第Ⅰ部

13:10 ～ 14:10　基調講演「学士課程教育の質保証」
講師：絹川 正吉氏（国際基督教大学名誉教授・元学長、新潟大学理事）
14:10 ～ 14:50　問題提起「教育の質保証に向けた教育プログラム評価」
講師：生和 秀敏氏（（財）大学基準協会特任研究員、広島大学名誉教授）

第Ⅱ部

15:00 ～ 16:00　シンポジウム
シンポジスト：絹川 正吉氏（国際基督教大学名誉教授・元学長、新潟大学理事）
生和 秀敏氏（（財）大学基準協会特任研究員、広島大学名誉教授）
長田 雅子氏（株式会社進研アド　Ｂｅｔｗｅｅｎ編集長）
西垣 泰幸氏（龍谷大学副学長・教学担当理事）
コーディネーター：松本 和一郎氏（龍谷大学大学教育開発センター長）

第５回 龍谷大学 FD フォーラムに参加して

法学部准教授 **河合美香**

今回のテーマ「学士課程の体系化と教育の質保証」は大変興味あるものでした。現在担当している授業の学士教育課程とカリキュラム上の位置づけと、また今後の展開を考えていく上で、多角的な視点から自問する必要性を感じているからです。

はじめに絹川正吉氏（国際基督教大学名誉教授）が「なぜ質保証か」、「学士力とは」について基調講演されました。学生の学力レベル、また学ぶ意欲が多様化する現状に対し、「教育の質を保証する」ことができるのか、すべきなのかを考える機会となりました。

次の生和秀敏氏（大学基準協会）による「教育の質の保証」と「大学評価」についての問題提起は、各大学が独自の教育プログラムを作成して教育の質を保証し、協会はそれが機能しているかを評価する、という内容でした。教育プログラムの重要性は承知しつつもどこまで作成するのか、また研究との兼ね合いも考える必要性を感じました。

その後の進研アドの長田氏と西垣副学長を交えたシンポジウムを含め、フォーラムは私にとって大変意義のあるものでした。特に絹川氏のユーモアを交えたコメント「学生の意欲を低下させる方法は、目標を示さず、問いかけに対して反応しないことである」は、一教員として今後肝に銘じたいと思います。

「教育の難しさを再発見」

社会学部准教授 **築地　達郎**

「学士課程教育」の唱道者である絹川正吉さんが来られると聞き、興味津々で参加しました。

絹川さんが示した「学術基礎教育の目標」は次の5点でした。①思考法についての重要な変化を経験したか②自分で考える力をつける助けとなったか③知識の記憶を超えた精神の働きかけを受けたか④英知に裏打ちされた知識の本質に触れたか⑤創造的思考の場に参加できたか――。

教員は学生たちにこのような経験・体験をさせねばならない、それが仕事だ、というわけです。

なんと難しい仕事でしょうか。

だからこそ日頃のFD活動、とりわけ教員同士の励まし合いや助け合いこそが王道である、と絹川さんは言外に語っておられたように思います。

ところで、こうした改善の成果は、大学全体に正のフィードバックをもたらさねばなりません。そういう観点から、『Between』編集長の長田雅子さんが印象的な指摘をしてくれました。

「高校の側に、卒業生の社会的評価、キャリア形成支援、そして教育方法の改善――この3つの大学情報がうまく伝わっていない」。

入試広報などとも連携して、FD活動の成果を外部の目にも見えるようにしていく工夫も大切だと感じました。

一歩踏み出すための FD 活動推進委員会へ

安藤　徹（文学部 FD 活動推進委員会委員長）

文学部では、文学部 FD 活動推進委員会を中心に学部および大学院の FD 活動に取り組んでいます。同委員会は、教務委員会との緊密な連携と役割分担とを効率的に行なうため、2007 年度より教務委員を中心とした構成に変更されました。教務委員会はどうしても日常的な実務、目の前の問題解決に時間を費やされがちです。対して、中・長期的な視点を持ちながら教育改善にかんする議論をし、今後の構想を提起していく組織として、FD 活動推進委員会の存在意義は大きいでしょう。2009 年度は 2 月末までに委員会を計 13 回開催するとともに、「文学部 FD 研究会」（全学公開する FD 報告会を兼ねる）を 2 回主催して教職員等との情報･意見交換をしました（FD 研究会については別途報告）。その他、今年度から基礎演習（必修）に部分導入した TA（ティーチング・アシスタント）にかんするアンケート調査を 11 月に行ない、また 4 年間の学修の集大成である卒業論文（必修）についての学生による「自己評価」調査（教務委員会が 2008 年度から実施）を 2 月に実施するなど、実情・問題点の把握のための情報収集と分析につとめています。

と、このように書くと、いかにも FD 活動推進委員会が実質的にうまく機能しているような印象を与えるかもしれません。しかし実は、委員会開催日時の設定上、充分な時間を確保できずに議論が継続となることも多く、なかなか具体的な検討にまでいたりません。このままでは、いっそう高まる FD 活動の必要性に応じきれなくなりそうです。

そこで、2010 年度からは委員会の開催回数を減らすかわりに、1 回ごとの時間を少しでも充実させて議論を深めたいと考えています。また、委員会内に 3 つの WG（ワーキング・グループ）をとりあえず 1 年間の期限付で設置し、テーマごとに検討課題にかんする具体的な提言をまとめ、できるものから順次実施にうつしていく体制に改編します。むろん、議論は大切です。しかし、踊ることにもいささか疲れてきました。さあ、いかにアクションを起こしていくか。現在、文学部には別に「改革検討委員会」が立ち上げられ、さまざまな改革が議論されていますが、主に教育面については FD 活動推進委員会が主導的に将来像を描き、教職員をはじめとする構成員の理解と協力を得ながら、教務委員会と協働して実現に向け努力していきたいと思います。

わずかでもいいから、ともかく一歩踏み出そう。委員会改革はそのための方策です。

理工学部学科 FD 委員会の設置と活動

藤原　学（理工学部教 FD 委員会委員長）

昨年度に、学部･大学院における FD 活動を主導する理工学部･理工学研究科 FD 委員会が設置されました。これに続いて、今年度においてその実働組織として６つの全ての学科・専攻に FD 委員会（委員会の名称は学科・専攻により異なっている場合があります）がつくられました。当然のことながら、これら FD 委員会が設置される以前より、学部・研究科においてはもちろんのこと、学科・専攻単位の FD 活動が日常的に行われていました。理工学部・理工学研究科教務委員会は、教務主任・各学科より２名の教務委員（2 年任期で１名ずつ交代）・教務課長・教務課員より構成されており、教務委員会の活動のほとんどが広い意味での FD 活動と考えることができます。また、教務委員会の活動のほとんどは基本的にそれぞれの学科・専攻での活動を集約したものです。学部・研究科、学科・専攻、そして個々の教員の関係性が、理工学部・理工学研究科での FD 活動を実質的に支えています。

理工学部･理工学研究科では、今年度に２回の FD 報告会（7 月と２月）、1 回の FD 研修会（3 月に予定）、複数回の FD 委員会を開催しました。さらに、2003 年度～ 2008 年度の「学生による授業アンケート」データを学科ごと・学年ごと・講義科目種別ごとに集計し経年変化の検討を行い、報告書を作成しました。そこでは、概ね次のようなことが分かりました。学科別・科目群別を問わず、ほとんど全てのアンケートにおいて理解度と満足度は共に 3.0 ～ 4.0 の非常に良好な範囲に分布しており、そして理解度と満足度に強い相関が認められます。細かく見ると、満足度の方が理解度よりもわずかに高い値を示す傾向が認められます。また、2003 年度から 2008 年度での経年変化はあまり認められず、ほぼ安定的な値を示しています。ただ、一貫して上昇傾向が認められる科目群も多く存在しています。理工学部では 2007 年度に比較的大幅なカリキュラム改革を行いましたが、それに伴う顕著な変化は認めらません（入学者自体が変化しているため、新カリキュラムがその変化に充分対応できたことを示しているのかもしれません）。学年による違いもほとんど認められませんが､その中でも５回生以上の理解度と満足度は共に比較的高い値を示していました。教養教育科目の高学年生の理解度と満足度は共に低学年生に比べわずかに高い値を示しています。男女別データでは、女性の満足度が男性よりもわずかに高い値を示す傾向が認められました。

その他に学科 FD 委員（教務委員が兼ねる）には、年２回の履修説明会の実施、成績表配布（一部学科）、単位僅少者への個別面談、学籍移動者（休学・退学など）への指導（クラス担任と分担）、保護者懇談会への参加、年２回の授業自己点検報告書作成、特色ある理工学部教育 2009 年度版報告書作成、学部・大学院時間割作成、非常勤講師の選定、履修要項作成、TA・LA・教育補助員等の希望数調査・選定・管理、高大連携活動参加、高校訪問、入学前教育の課題設定、FD 報告会・FD 講演会・研修会の企画・運営などいま思いついたことだけでもこれだけあり、本当にありとあらゆることをお願いしています。それぞれ教育・研究に忙しい中で時間をやりくりして献身的に作業していただいており、委員の先生方には心より感謝しております。全学で進んでいるいわゆる「3 つのポリシー」の策定や理工学部で予定している 2011 年度からのカリキュラム改革の検討ももちろんこれら委員の先生方が中心に行っていただいております。

さて、FD の量的な活発化に伴い、いろいろな大学において熱心で理解のある教員にある種の FD 疲れが生じていることが報告されるようになってきています。持続して FD 活動を行っていくためには、少数の熱心な教員だけが FD を担うのではなく、すそ野を広げて次の方にバトンタッチする必要があります。龍谷大学においてもそろそろ年間の活動を整理して、全体を一度スリム化し FD の質的充実をはかる時期にきているのではないでしょうか。

2009年度 公開授業開催報告

大学教育開発センターでは、授業運営にあたり独自の工夫や新しい試みを実施し、授業改善を行っている教員の授業科目を公開していただく「公開授業」を実施し、本学における教育活動の発展と向上を図っております。
今回は、その中から国際文化学部の取り組みをご紹介します。

2009年度公開授業開催一覧

経営学部

授業科目名：英語ＩＣ
担　当　者：李　洙任
開講曜講時：木曜日　１講時目
日　　時：2009年７月９日（木）

短期大学部

授業科目名：ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ
担　当　者：阪口　春彦
開講曜講時：水曜日　３講時目
日　　時：2009年11月11日(水)

理工学部

授業科目名：入門セミナー（物質化学科）
担　当　者：中沖・林・松下・富﨑・渡辺
開講曜講時：金曜日　３・４講時
日　　時：2009年７月３日（金）

法学部

授業科目名：現代日本の地域社会
担　当　者：富野　暉一郎
開講曜講時：金曜日　３講時目
日　　時：2009年10月16日(金)

社会学部

授業科目名：コミュニケーション論Ⅱ
担　当　者：村澤　真保呂
開講曜講時：木曜日　３講時目
日　　時：2009年11月12日(木)

授業科目名：コミュニティマネジメント入門
担　当　者：古賀　和則
開講曜講時：火曜日　２講時目
日　　時：2009年７月７日(火)

国際文化学部

【国際文化学部公開授業週間】
〈前期〉
対　　象：国際文化学部専任教員が担当する科目
聴　講　者：全学部の専任教員、および非常勤講師
実施期間：2009年６月15日(月)～６月20日（土）
〈後期〉
対　　象：国際文化学部専任教員が担当する科目
聴　講　者：全学部の専任教員、および非常勤講師
実施期間：2009年11月16日（月）～11月28日（土）

国際文化学部における公開授業の取り組み

さらなる教育の質の向上を目的として、前期は６月15日からの１週間、後期は11月16日からの２週間、国際文化学部において公開授業が開催されました。学部全体で授業を公開するという取り組みは、非常に先駆的な取り組みです。また、全学部の専任教員および非常勤講師の参加が可能であり、国際文化学部だけにとどまらない、全学的な波及効果の期待できる取り組みでした。

実施後も公開授業のあり方について、率直かつ活発な議論が学部で展開されました。教務主任の松村先生のお話では、公開授業を通して教員が情報交換をし、お互いの教育力を高めていくことは大切であり、各教員の積極的参加につながる運営方法を議論していく必要がある、とのことでした。

大学教育開発センターとして、国際文化学部での取り組みを参考にさせていただけたらと思います。

1. 実施期間：2009年 6 月15日（月）～2009年 6 月20日（土）
　　2009年11月16日（月）～2009年11月28日（土）
2. 対象科目：国際文化学部における全ての科目
3. 主　　催：国際文化学部、大学教育開発センター

2009 年度　大学教育開発センター活動報告

4 月 1 日	（水）新任教員対象研修会実施（深草学舎）
4 月 1 日	（水）自己応募研究プロジェクト（5 プロジェクト）始動
4 月 1 日	（水）指定研究プロジェクト (5 プロジェクト）始動
4 月 6 日	（月）第 1 回短期大学部ＦＤ報告会『ＦＤ報告会』
4 月 6 日	（月）第 1 回ＦＤサロン（秦由美子先生、阪口春彦先生） 第 1 回短期大学部ＦＤ報告会『ＦＤ報告会』
4 月 22 日	（水）大学教育開発センター News　No. 2009-1 発行
4 月 22 日	（水）第 2 回短期大学部ＦＤ報告会『ＦＤ報告会』
4 月 28 日	（火）第２回ＦＤサロン（KEVIN　A.　MACK 先生）
5 月 1 日	（金）第 1 回大学教育開発センター会議
5 月 7 日	（木）大学教育開発センター News　No. 2009-2 発行
5 月 15 日	（金）第 2 回大学教育開発センター会議
5 月 20 日	（水）大学教育開発センター News　No. 2009-3 発行
5 月 29 日	（金）第 1 回大学教育開発センター運営委員会
6 月 4 日	（木）大学教育開発センター News　No. 2009-4 発行
6 月 12 日	（金）第 3 回大学教育開発センター会議
6 月 15 日	（月）大学教育開発センター通信　第 1 号発行
6 月 17 日	（水）国際文化学部ＦＤ研究会『ＦＤ報告会』
6 月 18 日	（木）第 1 回ＦＤ・教材等研究開発検討部会
6 月 20 日	（土）第 2 回ＦＤ・教材等研究開発検討部会
6 月 23 日	（火）大学教育開発センター News　No. 2009-5 発行
6 月 23 日	（火）大学教育開発センター News　No. 2009-6 発行
6 月 24 日	（水）第 1 回文学部ＦＤ研究会『ＦＤ報告会』
6 月 24 日	（水）経営学部ＦＤ委員会主催ＦＤ報告会『ＦＤ報告会』
6 月 29 日	（月）第 1 回教育活動評価支援部会
7 月 1 日	（水）ＦＤサロンリポート 09-1 発行
7 月 2 日	（木）大学教育開発センター News　No. 2009-7 発行
7 月 2 日	（木）第 1 回交流研修・教育活動研究開発機能部会
7 月 3 日	（金）第 1 回公開授業及び評議会（中沖先生、林先生、 松下先生、富崎先生、渡辺先生）【理工学部物質化学科】
7 月 3 日	（金）第 1 回教学改革推進講演会（沖裕貴先生）
7 月 7 日	（火）第 2 回公開授業（古賀和則先生）【社会学部】
7 月 8 日 ～ 22 日	（水） （水） 学生による授業アンケート実施：前期（学部）
7 月 8 日 ～ 23 日	（水） （木） 学生による授業アンケート実施：前期（短大）
7 月 9 日	（木）第 3 回公開授業及び講評会（李　洙任先生）【経営学部】
7 月 10 日	（金）第 4 回大学教育開発センター会議
7 月 22 日	（水）大学教育開発センター News　No. 2009-9 発行
7 月 22 日	（水）理工学部・理工学研究科ＦＤ報告会『ＦＤ報告会』
7 月 24 日	（金）第 3 回短期大学部ＦＤ報告会『ＦＤ報告会』
7 月 31 日	（金）第 1 回大学教育開発センター会議現行授業アンケート検討プロジェクト
7 月 31 日	（金）第 5 回大学教育開発センター会議
9 月 9 日	（水）大学教育開発センター News　No. 2009-11 発行
9 月 16 日	（水）第 3 回ＦＤサロン　新任教員研修 (瀬田学舎)
9 月 17 日	（木）第 3 回ＦＤサロン　新任教員研修 (深草学舎)
9 月 18 日	（金）ICT 支援セミナー MS-OfficeSystem2007 新機能研修会
9 月 18 日	（金）第 2 回教学改革推進講演会（小林直人先生）
9 月 24 日	（木）大学教育開発センター News　No. 2009-10 発行
9 月 24 日	（木）大学教育開発センター News　No. 2009-13 発行
9 月 29 日	（火）第 5 回ＦＤサロン（学生との意見交換）
9 月 30 日	（水）ICT 支援セミナー MS-OfficeSystem2007 新機能研修会
10 月 2 日	（金）第 2 回大学教育開発センター会議現行授業アンケート検討プロジェクト
10 月 2 日	（金）第 6 回大学教育開発センター会議
10 月 5 日	（月）大学教育開発センター News　No. 2009-14 発行
10 月 7 日	（水）ICT 支援セミナー MS-OfficeSystem2007 新機能研修会
10 月 9 日	（金）大学教育開発センター News　No. 2009-15 発行
10 月 14日	（水）ICT 支援セミナー MS-OfficeSystem2007 新機能研修会
10 月 14日	（水）ICT 支援セミナー　e ラーニングワークショップ
10 月 16日	（金）第 4 回公開授業（富野暉一郎先生）【法学部】
10 月 23日	（金）第 4 回ＦＤサロン（須賀英道先生）
10 月 27日	（火）大学教育開発センター News　No. 2009-16 発行
10 月 27日	（火）大学教育開発センター News　No. 2009-17 発行
10 月 28日	（水）ICT 支援セミナー MS-OfficeSystem2007 新機能研修会
10 月 30日	（金）第 3 回大学教育開発センター会議現行授業アンケート検討プロジェクト
10 月 30日	（金）第 7 回大学教育開発センター会議
11 月 6 日	（金）大学教育開発センター News　No. 2009-18 発行
11 月 6 日	（金）大学教育開発センター News　No. 2009-19 発行
11 月 6 日	（金）第 2 回交流研修・教育活動研究開発機能部会
11 月 11日	（水）第 5 回公開授業（阪口春彦先生）【短期大学部】
11 月 12日	（木）第 6 回公開授業（村澤真保呂先生）【社会学部】
11 月 13日	（金）第 8 回大学教育開発センター会議
11 月 16日	（月）大学教育開発センター News　No. 2009-20 発行
11 月 16日	（月）大学教育開発センター News　No. 2009-21 発行
11 月 16日 ～ 28 日	（月） （土） 第 7 回公開授業週間【国際文化学部】
11 月 20日	（金）第 3 回交流研修・教育活動研究開発機能部会
11 月 25日	（水）第 2 回文学部ＦＤ研究会『ＦＤ報告会』
11 月 27日	（金）大学教育開発センター News　No. 2009-22 発行
11 月 30日	（月）大学教育開発センター News　No. 2009-23 発行
11 月 30日	（月）大学教育開発センター通信　第 2 号発行
12 月 2 日	（水）社会学部ＦＤ報告会『ＦＤ報告会』
12 月 2 日	（水）第 2 回教育活動評価支援部会
12 月 7 日	（月）第 8 回公開授業（飯吉弘子先生 (大阪市立大学准教授)）【経営学部】
12 月 10日	（木）ICT 支援セミナー　e ラーニングワークショップ
12 月 11日	（金）第 4 回交流研修・教育活動研究開発機能部会
12 月 11日	（金）2010 年度自己応募プロジェクト募集
12 月 12日	（土）第 5 回龍谷大学ＦＤフォーラム
12 月 16日 ～ 1 月 12 日	（水） （火） 学生による授業アンケート実施：後期（学部）
12 月 18日	（金）第 9 回大学教育開発センター会議
12 月 21日	（月）第 3 回ＦＤ・教材等研究開発検討部会
1 月 12 日 ～ 25 日	（火） （火） 学生による授業アンケート実施：後期（短大）
1 月 15 日	（金）第 5 回交流研修・教育活動研究開発機能部会
1 月 20 日	（水）大学教育開発センター News　No. 2009-24 発行
1 月 20 日	（水）第 2 回大学教育開発センター運営委員会
1 月 22 日	（金）第 10 回大学教育開発センター会議
1 月 27 日	（水）大学教育開発センター News　No. 2009-25・26 発行
2 月 8 日	（月）大学教育開発センター News　No. 2009-27 発行
2 月 9 日	（火）第 4 回大学教育開発センター会議現行授業アンケート検討プロジェクト
2 月 24 日	（水）第 2 回理工学部･理工学研究科FD報告会『FD報告会』
2 月 25 日	（木）第 4 回ＦＤ・教材等研究開発検討部会
2 月 26 日	（金）第 11 回大学教育開発センター会議
2 月 26 日	（金）大学教育開発センター News　No. 2009-28 発行
3 月 5 日	（金）第 12 回大学教育開発センター会議
3 月 5 日	（金）2009 年度指定研究・自己応募研究プロジェクト研究報告会
3 月 5 日	（金）大学教育開発センター News　No. 2009-29 発行

INFORMATION

新着図書紹介

大学教育開発センターでは、センターの資料として図書を購入しています。貸し出しも行っていますので、どうぞご利用ください。また、購入図書の希望も募っていますので、ご希望があればお知らせください。（教学企画部　内線：1050）

2009 年度　保護者に聞く新入生調査報告書

出版社名　全国大学生活協同組合連合会

本学大学院 FD について

大学院 FD の義務化にともない、本学大学院における組織的な FD を推進していくために、昨年度「大学教育開発センター設置規程」の一部改正（2008 年 11 月 20 日施行）を行い、各研究科に FD 委員会を設置しました。大学院教育の実質化の必要性が高まっている中、大学院においても組織的な FD の取り組みの重要性が増しています。

各研究科 FD 委員会と大学教育開発センターとが有機的に連携・協働し、組織的に大学院 FD の推進・支援していくために、新たに全学的に大学院 FD を推進・支援していく組織的な体制整備を行うべく、また同時に、全学的な FD 推進・支援体制の強化を図るため、2010 年 4 月 1 日より現行の大学教育開発センターに大学院 FD を推進・支援していく機能を付加し、大学院 FD を推進・支援するための会議体を新たに設置いたします。